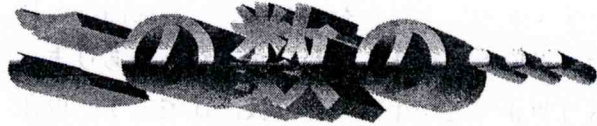


# 轍 わだち

2012, 11. 10 NO38



# 後ろには…

明日で1年8ヶ月目を迎えるにあたって、今一度、次ぎにかかげる数字を考えてみませんか。

死者1万5873人 行方不明2768人 避難・転居者32万4858人

震災関連死2303人

これらの痛みの背後には、どれだけ多くの人の涙が流されていることだろう。それを想像するだけで、被災地の悲しみはそうたやすく癒されるものではないことが分かる。先が見えない被災者に私たちは、何ができるのかを、常に問いかけ続ける。「何ができるのか」を…

# できました♪

高校2年上原実果さん作曲「明日へ」に歌詞がつけました。多くの生徒のみなさんから寄せられた「癒しの言葉」を紡ぎ合わせ、できた歌詞です。来週から校内放送で流してもらいます。

明日へ

作詞 平女生&上原

手のひらの中 集めた光  
ぬくもりの場所 導き照らす  
この道の先 何が待ってる  
歩み出す その未来には

思い返す 気持ち ああ涙も  
紡いで新たな明日へ

小さな希望 幸せ その笑顔は  
あなたが自分を信じた 証し  
あなたを想う 私たちの祈りは  
いつでも あなたのそばにあるから  
刻まれた 時を胸に 明日へ

導かれた あの道へ 前を向いて  
進んでいく あなたのその背中には  
言葉と心たちの 絆がいま  
照らされた 未来の 向こう 輝く

小さな希望 幸せ その笑顔は  
あなたが 自分を信じた 証し  
あなたを想う 私たちの祈りは  
いつまでも あなたのそばに

## ボランティアスピリット賞授賞

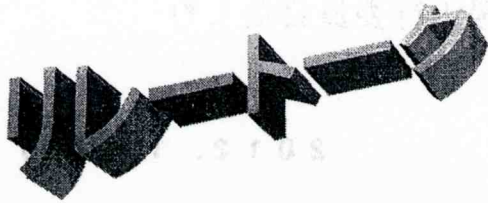
米国ブルデンシャル・ファイナンシャルが実施している国際的なボランティア賞の「コミュニティ賞」を今年も、昨年に続き授賞しました。授賞式は12月9日です。

### あなたもクリスマス飾りを作れますか

実行委員会では、全員が手作りで可愛いツリー飾りをフェルト生地で作ります。ストラップにも、ブローチにもできるものです。作ろうと思う人は実行委員に型に切った生地をもらって下さい！！

10月11日付河北新報（宮城県広域版）に大々的に気仙沼への1年半に渡る実行委員会の支援活動が紹介されました。この記事を読んだ被災者の方から「ありがとう」の手紙や気仙沼キャラクター「ホヤぼーや」クッキーを届けて下さった方々もいます。温かな絆に感激。





## 聖書科 藤原 健久

11月5-7日、私は事務局長を務める、「日本聖公会『いっしょに歩こう！プロジェクト』小名浜ベース 小名浜聖テモテ・ボランティアセンター」を訪れました。前は8月だったので3ヶ月ぶりの訪問です。現場では、前回から大きく変わった点が2つありました。ひとつは新しい仮設住宅の建設です。80世帯ほどが生活できる仮設住宅です。現在30件ほどが入居されています。入居されているのは、県外や、県内内陸部で避難生活をされていた人で、少しでもふるさとに近い地域で生活したいと来られる方や、また、長引く避難生活の中で、さまざまなストレスを抱え、それまでの生活の場を離れた方など、さまざまです。2つ目は、「交流センター」の設置です。これは、「借り上げ住宅」で生活されている方々を対象としています。借り上げ住宅は、避難生活のための住居として、既存のアパートなどを行政が借り上げて、被災者が使用するものです。仮設住宅と違い、分散してありますので、借り上げ住宅で生活される方々は、情報が届きにくかったり、援助物資が届きにくいなどの問題があります。そのような中で、孤立し、孤独に苦しむ方々もおられます。開所した当初、スタッフの方に対し、地震当日から今までの苦勞を、2時間以上も語り続ける方もおられたそうです。

今までの活動は、継続して順調に行われています。2箇所の仮設住宅で、週2回ずつ行われている「カフェ」は、今、地元のボランティアさんや、仮設住宅の住民の方々の奉仕によって運営されています。

地震発生から1年8ヶ月が経ちましたが、事態はまだまだ落ち着いていません。故郷へは、まだ数年以上帰還できないとされ、避難生活の長期化が余儀なくされています。その中で、深刻なストレスを抱える人もおられます。また、仕事や生活の回復が、十分にできていない方もたくさんおられます。

また、福島県に行くと、いつも強烈に感じるのが、放射線による圧迫感です。新聞、テレビ、ラジオでは、毎日、県内各地の放射線量情報が流されます。事故を起こした原子力発電所での作業の状況や、除染活動の進捗状況が、ニュースのトップを飾ることが珍しくありません。子供たちを外で遊ばせるかどうか、いまだに議論があり、子供たちは十分に遊べていません。どの食物を口にしたらいいのか、不安に感じておられる方がたくさんおられます。

被災された方々のことを、決して忘れてはいけないと思います。

## 震災を考える図書紹介

< 図書室より >

震災絵日記



おもかげ復元師の  
被災者の子



やさしい顔に会えて、やっと心から泣ける「おもかげ復元師の震災絵日記」。広島と福島の子の、心のふれあいを描いた、「ふくしまからきた子」。そして、災害から何がなんでも「にげましょう」。

生き別れたペットたちの保護活動をレポートする、「おいで、一緒に歩こう」。  
是非読んでみて下さい。